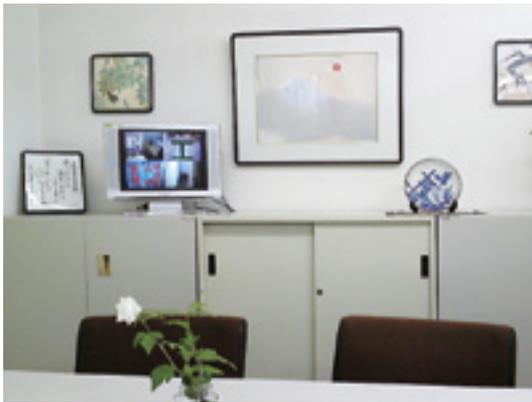


株式会社ソトボー住建 代表取締役

鳥原 真利子

不動産業の他土木・建築工事と併せて、住宅の防犯対策に力を注ぐ株式会社ソトボー住建。総合防犯設備士の資格を持つセキュリティのプロフェッショナルでもある鳥原社長に、大切な財産である家を守るために必要なこと、住宅の防犯のあり方についてうかがいました。

総合防犯設備士の経験生かし 防犯アパート・マンションの 展開目指す



時代を読みとく経営の秘訣を創業期に学ぶ

一念発起で宅建取得 不動産事業で独立

1987(昭和62)年に創業。

不動産業と併せた防犯設備の販売・施工が大きな特色です。

当初は、大網の不動産業者のビルの一角を借りて転送電話事業を立ち上げました。ただ、時代の趨勢を感じ、もともと不動産事業も視野に入れていたこともあって不動産業に転身しました。

その後、一念発起で宅建を取得し独立しました。当時はちょうどバブルの真っ盛りの時期、創業したばかりでも仕事に困ることもなく、業績も右肩上がりでした。

やがてバブル崩壊で多くの不動産業者が痛手を受けました。弊社は、無借金経営で堅実にやってきたため、バブルの波に飲まれることなく成長を続けることができました。その後、私の関心はセキュリティの分野に移っていったのです。

セキュリティについて学び 防犯設備のプロを目指す

あるお客さまから、住宅の防犯についてのご相談を受けたのをきっかけに、セキュリティシステムについての勉強をするようになりました。

2004(平成16)年にまちづくり条

例というものができて、一般家庭の防犯対策が叫ばれた頃です。

当時の一般住宅の防犯といえば防犯ガラスと鍵が主流でしたが、「本当にそれだけでいいのか」という疑問を感じていました。それが防犯設備のプロになろうと決意したきっかけですね。

そのためには、まず防犯設備士の資格を取得しなくてはなりません。この資格があって、カメラや警報器といった防犯機器を取り付けたりといった仕事ができるようになるのです。

2005(平成17)年、千葉県に防犯設備士協会が発足しました。その発足に関わった関係で、初代事務局長を3年間務めました。在任中、防犯についての知識を深めたいと考え、難関とされていた総合防犯設備士試験にも挑戦しました。

総合防犯設備士とは、防犯設備士よりもさらに幅広く防犯について考えなくてはなりません。外からの侵入を防ぐだけでなく、財産や家、命、さらには社会的信頼まで、すべてのリスクから「守る」ということを考え、適切な対応を判断しなくてはならないからです。

以来、防犯についての総合的なアドバイスだけでなく、住まいの安心・安全を一般の方に理解してもらえるよう、活動を続けてきました。



とりはら まりこ

1948(昭和23)年生まれ、鹿児島市出身
1975(昭和50)年

庄内農業協同組合入社

1979(昭和54)年 三豊商事入社

1983(昭和58)年 プティックNAO経営

1987(昭和62)年

有限会社エムティ総合企画創業
1993(平成5)年

有限会社ソトボー住建商号変更 取締役就任

2006(平成18)年

千葉県防犯設備士協会事務局長

2009(平成19)年

株式会社日本総合防犯創業

2010(平成20)年

株式会社ソトボー住建商号変更 代表取締役就任



「守る」という観点から防災用品も取り扱っています



「どう守るか？」防犯の心得と ビジネスとしての防犯対策

家庭の条件にあった 防犯システムを提案

防犯対策は入り口と窓、そして鍵が基本です。そして、住まいの防犯は住んでいる方の家族構成で守り方が変わってきます。

お年寄り二人暮らしの世帯に複雑な機械を取り付けても扱い方がわかりませんよね。夜遅く帰ってきたお父さんが警報機を鳴らしてしまうこともあるかもしれません。その家庭の条件に合わせたシステムを提案していくことが、とても大切なことなのです。

鍵もCP鍵※など簡単に開けられないものもありますが、必ずしも万全ではありません。普通の鍵より開けるのに時間がかかるというだけです。窓ガラスを破られても、周囲の騒音のため音に気づかない、そんな場所にお住まいの方もたくさんおられます。

ただ一つ確実なのは、何もやっていない家より、何かしら防犯対策をやっている家の方が狙われにくいということです。外から見たときに、入りにくいと思わせることが大切なのです。

防犯の必要を感じたら、ぜひ私たちに相談してみてください。防犯診断した上で、最適なシステムを提供できると思います。

時代を読みつつ 理解を広めたい

防犯機器に関しては、今のところ個人宅や店舗が主流ですが、アパートやマンションにも広げていきたいと考えています。そのためには、アパート・マンションの管理者の方の理解を得なければなりません。

アパートの各戸のドアに防犯カメラを取り付けたら、住人の方たちはきっと嫌がるでしょう。そうではなく、建物の入り口に設置したり、特に女性専用のアパートやマンションなどには、出入り口の防犯カメラは不可欠ですね。なぜ、防犯システムが必要なのか、まず、管理人さんや大家さんと話し合い、理解していただくようにしています。

最近、女性の一人暮らしを狙った事件が多発しています。アパートの一室で何か事件があれば、そのアパートの価値そのものが損なわれてしまいます。きちんと防犯対策が施されていれば、住人も安心ですし、アパート・マンションの価値も高まると思うのですが。

防犯機器にはどういうものがある、どういう効果があるのか、どこに取り付けて、どう取り扱えばいいのか、という理解を広める。とても難しいことだと思いますが、その必要性を感じています。

私は、「防犯アパート・マンション」

をこれからも提案し続けていくつもりです。不動産のこと、セキュリティのこと、何でもご相談ください。

これからの社会、災害や治安の乱れなど、防犯・防災に関するニーズは確かに高まりつつあります。時代を読み、先を見つめることが会社経営の秘訣なのではと考えています。

※CP鍵…CP-C (Crime Prevention Cylinder: 防犯シリンダー)という認定制度があります。(財)全国防協会連合会が日本ロック工業会に委託して試験を実施しています。CP-C認定シリンダーとなるには耐久性などの基準をクリアしなければなりません。

鳥原社長Q&A

Q1 1日の平均的なスケジュールは？

朝6時半ごろ起床。9時半ごろ出社。現場に直行することも多い。用事がなければ午後6時ごろ退社。7時か7時半ごろに帰宅。就寝は午前1時ごろ。

Q2 愛読紙・書は？

読売新聞。いろいろなジャンルの本を週に4～5冊読む。

Q3 仕事以外でハマっていることは？

図書館通い。身の回りで見つけた草花を飾ったり、友人などとおしゃべりすること。

Q4 座右の銘(好きな言葉)は？

「鉄は熱いうちに打て」。
新しいものや、これをやろうと思ったものには、まっしぐらに向かっていく。あとは、真正直に生きていきたい。

Q5 ストレス解消法は？

あまりストレスは感じない。100人いれば100人の性格があると思うので、人と接するときは必ずいいところを見つける。

Q6 「やる気の源」は？

旅行と家族などの存在。守らなければいけない人たちがいて、その人たちのために元気でいたい。